



市立図書館について

太平会 山口 良樹

問 市立図書館の指定管理者の更新について、文教社会常任委員会で活発な議論がされましたが、これまでを検証してきますと、いろいろな問題がありました。中央図書館がオープンしてからこの3年間に多くの違法行為があり、協定書で約束した内容が履行されていなかったということが、第三者評価機関から現実に報告されています。

私が議会から発信してきたツタヤ図書館問題をどのように認識し、どのような対応をしてきたのでしょうか。そして今回、審査に当たった指定管理者選定委員や教育委員の皆さんがそれらの不法行為や協定違反行為をどのように踏まえて、この審査結果を導き出したのか、お尋ねします。

答（教育長）…これまで指摘されたことが是正できるのかということも教育委員と議論した上で、指定管理者制度の継続を決定しました。選定委員会の結果報告を受け、次期の指定管理者候補者を決定した際にも、教育委員一人一人がこれまでの問題の是正状況などを確認したところです。

答（教育部次長）…選定委員会では議員の指摘事項をはじめ、さまざまな項目を審査しましたが、①個人情報保護など法令順守については、社内にはその都度研修を行う②著作権については、責任者を置きチェック体制を構築する③図書司書については、社員の通年採用、雇用条件の改善、正社員化などの確保策を講ずる④館長は新たな者を任命し、常駐を予定している⑤選書については、これまで同様、2館の司書が選書会議を行い、最終的に両館長が決定する⑥情報セキュリティについては、共同事業体全てがPマークまたは情報セキュリティマネジメントシステムを取得している―ことを確認しています。

このほか、労務関係、財務関係、施設の運営方針など、さまざまな視点から確認し審査いたしました。



学校でのがん教育について

公明党 福地 茂

問 がんは、国民の2人に1人が罹患し、国民病ともいわれる疾患であるにもかかわらず、健康な時からがんについて学ぼうという意識は高いとは言えません。がん患者へのアンケート調査でも、「他人事だと思っていた」「無関心だった」と答えています。

また、義務教育におけるがん教育が不足していることで、小児がん患者を含むがん患者に対する偏見のみならず、小児がん患者の医療機関への受診の遅れ、診断と治療の機会喪失にもつながっているとも指摘されています。文部科学省は、平成18年に成立したがん対策基本法の下、子どもに對しては、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つよう教育することを目指すとしています。

そこで、海老名市の学校でのがん教育について、カリキュラムなども含めてお聞かせ下さい。

答（教育部長）…がん教育については、小学校では6年生の保健の授業で健康な生活や病気の予防などの中で、がんについても学んでいます。中学校でも3年生の保健体育科の疾病の予防の中で、がんの発生の仕組みや検診の大切さについて学んでいます。また、平成28年度に県のがん教育モデル実践校として柏ヶ谷中学校で実施した授業をもとに、市内中学校3年生を対象に授業を行っています。

今後、子どもたちががんに関することも含めて、疾病についての正しい知識を持って健康な生活への意欲が持てる教育を進めていきたいと考えています。

答（教育長）…正しいことを理解することが大事です。今後、医療技術が進めば、がんになっても働ける、がんになっても普通に生活できるということを教えることが必要です。医療の専門家を招いての授業も、海老名市医師会と相談しながら研究してまいります。

その他の質問

・支援物資供給の円滑化について



自由通路の安全性について 中学校体育祭におけるむかで競走の安全性について

いちごの会 吉田 みな子

問 海老名駅自由通路駅間部は動く歩道があるため、ほかの通路部分とは違い、床材はウッドデッキを使用し、その下は深さ約60センチほどの空洞になっています。今年に入ってから破損が急増し、指定管理者の報告で幅14・5センチ、長さ20センチほどの大きな穴が開いていたことがわかっています。破損の原因究明を急ぎ、事故を防ぐよう、より細かな点検、補修をしていくことはもちろん、床材の見直し、張替えも検討する必要があると考えます。破損状況や原因分析について伺います。

答（まちづくり部次長）…ウッドデッキの部材の交換状況は、平成29年に8カ所、平成30年に26カ所交換しています。現在、仮補修が40カ所程度となっております。指定管理者による日常的な点検、確認などを行い、破損箇所の早期の発見につとめており、現在、メーカーに協力いただき今後の対応を検討しています。

問 過去3年間に、3人の生徒が体育祭のむかで競走の練習中に骨折していたことがわかりました。事故防止の留意点をまとめた指針を示すなど、安全対策を強化することが必要と考えます。むかで競走の安全性についての教育委員会の認識と見解を伺います。

答（教育部次長）…むかで競走は中学校6校中3校が実施しており、けがの状況は、過去3年間で骨折3件、捻挫などが4件あり、いずれも練習中の転倒によります。けがを未然に防ぎ安全な学習を実現することが学校の大きな課題です。むかで競走についても、これまでけがの防止策を積み重ねており、骨折などがあつた学校では、次年度に向け競技のあり方や練習方法について協議を進めています。教育委員会としても、けが防止について指導してまいります。

その他の質問

・交通政策について

・生活道路等の窓口対応について